

海南高校
生徒会
対談



進学 兵庫県立大学
国際商経学部

木野綾奈先輩

出身 海南高校

諸活動 生徒会・ESS部



進学 室蘭工業大学
理工学部

津村美羽先輩

出身 海南高校

諸活動 生徒会

AC(青石): 合格おめでとうございます!

木野・津村: ありがとうございます。

志望校を決めた時期ときっかけは?

木野: 英語が好きで外国語に興味があったので、外国語大学に行きたいと思っていました。高3の4月頃、それを学校の先生に話したら「兵庫県立大はどう?留学生と一緒に寮生活ができるし向いてるんじゃない?」と言われて。生徒会の先輩も進学していたから、調べてみようかな、と。とりあえずHPで校舎とかを見て、夏休みにオープンキャンパスに行きました。

津村: 私は中学生の頃から理科が好きで、“理系”に憧れがあって。やりたいことを探していったら「化学」「創薬」かな、と。HPで研究内容を見たり、オープンキャンパスに行ったりして系統を決めました。春休みに行った大学のオープンキャンパスでは、工学部系統で医療機器を作る研究室を見て「あー、薬だけじゃなくこういう方面からも人の苦しみを助けることができるんだな。」ということがわかりました。

生徒会ではどんな活動をしていましたか。

津村: ざっくり言ったら雑用(笑)。

木野: みんながやりたくないことをやる感じ(笑)。高2の春から、体育祭・文化祭の準備・運営のことをずっと考えてた。文化祭は先生が決めたテーマを、生徒会が膨らませていく感じで。食券売りの管理や体育館のドアマンから始まって走り回ったな…。体育祭は設営、審判やMC、得点管理とか。体育祭の方が生徒会の仕事は目立ってるかも。みんなから「頑張ったな!」って言ってもらえる!

AC 青石: 木野さんは高2の時は生徒会副会長で。ESSも入っていたよね?

木野: 中学生の頃はこんなに積極的な性格じゃなかったし、自分の思っていることを口に出せる子じゃなかった(笑)。でも生徒会でみんなから刺激を受けて。自分の意見や思うことを言ってみようって思えるようになって。自信が持てるようになりました。生徒会って先生側の意見と生徒側の意見が対立した時に、中立の立場を取らないといけなくて。生徒会の中でも意見が分裂することもあって、まず生徒会内の意見をひとつにまとめないと主張できない。難しいことも多かったけど、視野は広がったと思う。ESSでは英語で会話の練習を。トピックを決めてグループで話し合ったり、ミニゲームをしたり、英語で映画を見たり…。部長も務めました。

津村: 一番しんどかったのは高2の時。

先輩に教えてもらうこともまだまだいっぱいあるのに、後輩には教えないといけないし。でも生徒会の仕事をしているうちに「こんなことで悩んでるんやろうな」「こう思ってるんやろうな」って人のことを考えられるようになって。後輩と先輩をつなぐことが多かったな。

部活と勉強の両立。意識していたことは?

津村: GES(中学生部)でもACでも学校でも「3周」って言われていて。みんな3周って言うから3周やろうって。数学は4プロ*とチャート*を。ACや学校の授業が終われば4プロ1周目、テスト発表後に2周目~3周目。余裕があれば4周。夏休みとかの長期休暇期間でのチャートの宿題も3周。それは高1の時からずっと続けてきました。だから定期テストや宿題考査は、見たことがある問題ばかりやった!(笑)

木野: えらっ!!私はALTの先生が大好きで、英語だけは頑張ろうと思ってた。高1の時の数学は…4プロのA問題しかやらずにテスト前にめっちゃ焦る、という繰り返しでした。その分、英表(英語表現/論理表現)と英コミ(英語コミュニケーション)の勉強を。あとは世界史と国語は頑張りました。でも、必死でやるのはテスト発表してからかな。



定期テストの勉強を頑張るモチベーションは？

木野： 高2の時に、数学が得意な友達ができ、その友達と点数を競ってました。だから高2で習った数ⅡBはわりと得意！負けた方がジュースおごる！とか。そういうライバル的な存在が英語でも数学でもいたので、高2から勉強に対する姿勢は改善されました(笑)。英語の小テストを真面目に勉強し始めたのも高2です。美羽みたいに3周もやってないけど、単語帳や学校の構文の問題集*とか…。

津村： うーん…。理系科目はだいたい自分が1位やったからな…(笑)。自分に満足できるまでやりこむ！というのが目標だったかも。数学では勝てない子が何人かいたから、勝てたらいいなと思ってたけど…。やっぱりライバルに勝つというより「自分」かな…。とにかく3周、徹底的にやりこんでからテストを受ける。文系科目は評定で「5」をとれるように教科書やワークの内容を必死で覚える。

木野： できれば100点を！とか1位を！とか思う気持ちもなかったん？

津村： なかった。なんでがんばってたんやろ？(笑)やりきった感かな…。高1からずっと「3周」を続けてきたから、3周やらんと怖かったんよね。何回もやってたらパターンがわかってくる！これは絶対出るやろなって。でもそれは絶対誰にも言わん！(笑)

木野： 教えてよ！！(笑)

いよいよ受験生！と思ったタイミングは？

津村： うーん…切り替えたタイミングとかはなくて、いつも通りって感じかな。高校受験が終わった瞬間から大学受験までずっと鉛筆持ってたからな…。

木野： 私は高3のAC春期講習会。久保

田先生(ACクラスライブ授業-英語:久保田先生)の授業でスイッチ入れた。課題とその期限を与えられて。ターゲット*やVintage*のテストもあったし。今までちゃんとやってこなかったから「あー、これが受験勉強か」「受験生か」って思った。雰囲気解けていたところもあったけど、きちんと理解して進めることが大事ということに気づいた。

津村： 確かに、私も高3の春期講習会、ターミナル校まで数Ⅲ(ACクラスライブ授業)の授業を受けに行った時「なめてたらあかん」「真剣に取り組まないと！」って思った！(笑)英語は、それまでは『やれ！』って言われたことしかやってこなかったけど…(笑)。久保田先生が教えてくれることをちゃんとやろう、ついて行こう！って思えた。英語だけじゃなく、メンタルも鍛えてもらえた。

木野： あと、吉田先生の大阪公立大の授業(ACクラスライブ授業-大阪公立大対策英語:吉田先生 ※2023年度講座名「難関大二次対策英語」)！初めて聞く言葉もいっぱいあって！私は「何言ってるの？」って感じやったけど、周りの子たちは理解できてるっぽくて。それを見て、私は海南高校では上位にいるけど、桐蔭・向陽の子たちは、「この授業を普通に理解してるんや！私なんてまだまだや、ちゃんとやらな！」って思った！授業を受けるたびに、もっと頑張らな！って気合が入ったもん。自分よりできる人がいっぱいいる環境って大事。

津村： そうそう！座るだけでも価値あった。わからなくても行くべき！(笑)めちゃくちゃしんどいもん！ノートの取り方も違って、うわ！そういう使い方してるんや！と思って真似したし。あと、夏休みの勉強会(AC:夏の勉強会)は、ほぼ海南生で楽しかった(笑)。

夏休みの勉強時間は？どんなことをした？

木野： 1日10時間ぐらいかな。

津村： 朝から図書館に行って、午後からACで22時まで。だから10～12時間ぐらいかな。

木野： お盆の勉強会(AC海南駅前校)、一日中みんな教室にとじこめられたよな。学校の補習の空き時間も学校の自習室で勉強して、補習が終わったらACに来て…。理科基礎は夏休み中にセミナー*を1周通ろうと思って。ACのチューターの先生に質問攻めしました。他の科目もまずは基礎固めを。数学は黄チャートとACの授業テキスト、英語はターゲット、Vintageと構文の問題集を。漢文は速答法*、日本史は高2の時、おもしろくなくてすっぽかしてたから、はじめる日本史*を。

津村： 私も基本的には復習。自分で変に解釈した知識を頭に入れると後から大変と思ったので、予習は言われた時だけするという感じでした。



AC青石： ちなみに、夏休みに二次試験の過去問は見た？

木野・津村： 二次のことなんかまったく考えてなかった！

秋は、文化祭・体育祭があって。並行して推薦の準備？

木野・津村： 秋は病み期！

津村： 面接練習、志望理由書、自己アピールについて考えないといけない。理想の自分と実際の自分がかげ離れていて、それに時間を取られて普通の勉強ができない！しんどかったです。学校からACに行くまでの遊歩道、毎日泣きながら歩いてた。

木野： 私は提出するのは活動履歴書だけだったけど、英語の小論文の対策がきつかった。ストレスで毎日お腹が痛かったです。

もっとこうしておけば！と思うことはありますか。

津村：メンタル面で、もっと色々余裕を持って過ごしたかった。いつも何かに追われていて(笑)。でもまあ、そこまで追い込んでたから合格できたのかもしれないけど…。家に帰っても寝るだけで。ご飯を食べる時間ももったいないから、鉛筆を持てるように片手で食べられるものにして。私が自信を持てるようになるには、とにかく“量”が必要で。「3周とおった!」「ノート何冊目終わった!」みたいなことが自信になっていて。高1の頃から数学・理科だけじゃなくて、他の科目にも目を向けておけばよかったのかなと思います。英語なんか、言われなかったらやらなかったし…。

木野：私は「さぼるな!」と言いたい! 高1の時は古文単語、高2では日本史。高3になってほんとに苦労した。嫌でも授業が楽しくなくても、ちゃんとやらないとあかんかったなって。じゃあ、もう少し余裕ができてたかな。あと、海南高校生は早めにターミナル校の日曜自習室に行け! かな。絶対行った方がいい。図書館だったらスタバを飲んでしまうし…(笑)

津村：図書館は、特に共通テスト前、朝の時間にはAC生しかなくて。だいたい同じメンバーで。でも、だからこそ「みんな頑張ろう」って思えた。月曜にACの英語の授業があるから、日曜の20:30頃から図書館でAC生とチェックテストの問題を一緒に解いて。合ったら「よっしゃ!」みたいな…。

木野：一緒に頑張れる友達は大変。毎日友達と「あとちょっとやから頑張ろう!」って言い合ってた。競い合えるし、しんどい時は励ましてくれる…。だいぶ助けられたな。

津村：私いましてい! 頑張れって言って! とかも言えたし。入試の前日、話される友達もいて。ほんまに嬉しかったな。

木野：「木野ちゃんかっこいい! かわいいから大丈夫!」って言ってくれる友達がいる。「そうよな! いけるよな!」って思うようにした。共通テスト当日も、英語リーディングを失敗した気がしたから、リスニング前にトイレで泣いてしまったけど、トイレで「大丈夫! かわいい! 大丈夫!」って言い聞かせました。(笑) 暗示することも大事!

受験生活で気をつけていたことは?

津村：模試の日や入試の日の食べるものを揃えるようにしました。おにぎり2個とゼリー飲料とラムネとか。12月ぐらいから共テの時間割に合わせて食べるようにしました。二次までの期間は、二次の時間割に合わせて。12時に終了だったから、12時半まで我慢できる量はどのぐらいか、とか考えながら準備してたかな。だから受験が終わって、時間の制限から解放されたことも嬉しかった!

木野：私は…食べたいときに食べてたな…(笑)。試験の時は逆にお腹を少しすかせてたかも…。こんなに極限状態で頑張ってるんや! と思えるように。緊張したら、吐きそうになるから。

共通テストの後、出願大学を迷わなかった?

木野：少しは悩んだけど、一番行きたい大学を受けないでどうすんの! と思って。推薦を受けられなかったリベンジもしたかったし。二次の科目は数学だけだからか

なり怖かったけど「合格できなくても仕方ない! 私立も合格してたし挑戦しよう」って。そう思ったら、公募で合格できてたことは大きかったかな。「何校も受かってるから天才! いける!」って(笑)。

津村：私は、正直…点数を見ても何も感じなかったんですね。落ち込むわけでもなく。「終わった! やりきった!」という感情だけで。だから、国公立の出願先に関しては、「どこへでも受けに行くから」って感じで(笑)。でも、私立の一般入試は「落ちたらどうしよう」ってほんまに怖かった。化学はセミナーをもう1周、数学はサテライン(AC代ゼミサテライン講座-数学的思考の鍛錬〈数学IAIIB編〉)のテキストを、英語はEQ(AC英語基礎力トレーニング講座『English Quest』)をひたすら解き直しました。

木野：私もEQはずっと見てた! EQ見てたら落ち着く! 心の支えやったな!

津村：一番嬉しかった瞬間は、私立の合格を見た時だったかも。初めての合格だったから。やっと合格できた! って。

二次対策はどんなことをしましたか。

木野：俊郎先生(AC代ゼミサテライン講座-山本の重要問題Select100〈数学IAIIB〉)のテキストをやりこみました。

津村：数ⅢはRyu先生(ACクラスライブ授業-数学:山本先生)のテキスト、数IAIIBは引き続き「思考の鍛錬」のテキストを。どっちのテキストも志望校より難しい問題も多かったけど、ずっと解いていたので、解けない問題があっても「ここまで解けなくてもいい!」って割り切れたし、解けたら解けたで「余裕!」って思えたか



な。共テから二次までの1ヶ月で使ったノートは18冊です。

AC 青石： それにしても…2人とも、本当に最後まで頑張ったね。海南高校生って、指定校推薦や公募推薦で合格して、12月頃には半分以上の進路が決まっている状況で。その中で2月25日まで勉強を続けるって、どんな精神状態だった？

木野： 「早く受験が終わってほしい！」とは思ってたけど、「勉強できる時間が多い、その分、他の子より自分がかしこくなってる！」って思うようにしていました。

津村： 私は何とも思ってなかったな。理系の大学って入学してから実験とかで大変って聞いてたから、これから先もこんな感じなんやろうなって。公募で私大に合格したから、第一志望の国公立大はやめて受験終わってという子もいたけど、そこで努力するのやめていいん？って思う。ゲームしたり、遊んだりしてるけど、自分はまだまだ努力する！頑張れる！って言い聞かせてた。もはや感情はなかったかも(笑)。

木野： 「は？クリパ？腹立つわー！って」(笑)。見るのもしんどかったからインスタのストーリーも非表示にしました(笑)。学校で一緒に勉強してた友達は早めに合格したけど、大学に向けて勉強してた。私は正直何回も「やめたい！」と思ったけど、応援してくれる人がいたし。みんなに「受ける！」って言ってしまってたし最後までやり続けないとカッコわるいって気持ちもあった。プライド高いんかな、私。

ACを選んだ理由は？

木野： 他の塾も見に行ったけど、ACには美羽とか他の友達もみんな来てるし、行ってみようかなってノリで。雰囲気がいになって。すぐに馴染めたな。

津村： 海南高校に合格が決まってやったー！という時に、高校生になっても塾に行かせてほしいって頼み込みました(笑)。GESの時から塾や先生が好きで。辞めたくなかった。それに、数学の得点も100点満点で47点しか取れてなかったから、塾に行かないとやばい！と。「今から受験勉強並みに勉強しておかないと落ちこぼれてしまう」って不安だったので、他の子たちが本気で勉強し始める前に上げられるところまで上げておこう、と。

大学生になってやりたいことは？

木野： 3カ国語を話せるようになりたい。英語・日本語と、スペイン語か中国語を。留学生ともコミュニケーションをとって、自分の世界を広げたいな。

津村： 私は将来したいことを大学に入ってから決めたいな。どんな勉強ができるんやろうってわくわくしてる！

後輩たちにアドバイス

津村： 「なんでも3周！」3周もすれば、覚えられるし、自信にもなる。定期テストレベルはなんとかなる！その中で、自分に合う勉強法を早く見つけてほしいです。最

初、私は全教科まとめノートを作っていました。でも、高2の秋に時間がない！ってなって。1周目問題を解いて、わからない部分や間違えた問題だけをまとめるようにしたけど、意外とそれでも頭に残ってて。でも、勉強しないとそれには気付けなかった。時間がないという状況に追い込まれて初めて新しい道が開けました。

木野： そうよな、量をやりこまんと分らない。まとめノートが合うって子もいるし。高1・高2生には「小テスト・定期テストの勉強をしっかりと！」と伝えたい。受験生になった時にわかる。私の場合は英語の蓄えがあったので、受験生になって“英語の勉強”は問題に慣れるためのトレーニングに充てられたから。高3生は「諦めずに最後までやり続けて！」かな。

対談内で発言のあった問題集・学校教材

■数学

- *教科書傍用問題集4プロセス(数研出版)
- *黄チャート チャート式解法と演習(数研出版)

■英語

- *英語の構文80(美誠社)
- *英単語ターゲット1900(旺文社)
- *英文法・語法Vintage(いっすな書店)

■理科

- *セミナー化学基礎/生物基礎(第一学習社)

■漢文

- *早覚え速答法(Gakken)

■日本史

- *はじめる日本史 要点&演習(Z会)

インタビューを終えて

2人の勝因は①勉強法の早期確立②実行力にあったと思います。国公立大学の受験は、科目数も多く、かつ、共通テスト/二次試験、どちらもクリアするための学力が必要で、相当な努力が必要です。具体的に志望校が決まり「さあ勉強を始めよう！」という時、「何からどう勉強すればいいかわからない」という海南高校生が多い中で、2人とも高3スタートの時点で、得意科目は自分に合う勉強法を見



つけられていました。津村さんは、ACでも手ぶらでご飯を食べることがないほど『自分に納得がいくまでやりこむスタイル』を徹底。木野さんは、模試のたびに「悔しい！次頑張る！」と自分を鼓舞し、一緒に決めた“次”までにやることを必死で克服しようとしていました。ですが、2人とも、決して『ガリ勉』タイプではなく、“勉強”以外のことにも一生懸命で、私の目からは高校生活も思いっきり楽しんでいるように見えました。感染症の流行で制限も多かった高校生活でしたが、高3の文化祭ではクラスの準備を主になって進めたり、ステージではダンスも披露したり、本当にかっこよかったです！ACでも、毎日の自習、普段の授業はもちろん、勉強会や年末年始特訓に積極的に参加し、ムードメーカーとして海南駅前校を盛り上げてくれました。高いコミュニケーション能力を備え、バイタリティあふれる木野さん、津村さん、これから始まる大学生活が充実したものであるよう祈っています！和歌山に帰ってきた時には、ぜひACに来て色々話を聞かせてくださいね！

ACカウンセリングスタッフ 青石 千映